

特集：西洋精密科学受容の先人たち (2)

	幕府天文方成立の歴史的意義	山田慶兒	353
	漢訳西洋暦算書と近世日本の暦算家	小林龍彦	366
	寛政暦と和時計—夜明けの定義をめぐる	橋本毅彦	373
	天文方の進歩観, 科学史観—高橋至時を中心にして	中山 茂	380
	羽間文庫の高橋至時関係資料	井上智勝	384
	伊能忠敬の全国測量と至時	箱岩英一	391
	シンポジウム「西洋精密科学受容の先人たち」: パネルディスカッション	中村 士	396
EUREKA	超高光度赤外線銀河のエネルギー源	今西昌俊	399
	コロナ質量放出 (CME) の太陽周期変化	八代誠司	409
雑報	2005 年度「夏の学校」のお知らせ	須田浩志	415
シリーズ	《ミニラボ。～研究室紹介新ばーじょん (17)～》 香川大学教育学部地学教室	松村雅文	416
追悼	大野陽朗先生を偲んで	坂下志郎	418
月報だより			420
年会	日本天文学会 2005 年秋季年会のお知らせ		434

【表紙説明】

SOHO 衛星搭載の LASCO コロナグラフで撮像されたコロナ質量放出 (CME) の時間発展 (青色). 太陽の位置に, EIT 望遠鏡で撮像された極紫外線像を合成してある (緑色). 太陽の外層大気であるコロナの一部が惑星間空間へと放出されるようすがよくわかる. 明るいループ状の構造は磁力線の形を表していると考えられており, CME とは磁化したプラズマが太陽から放出される現象である.

(EUREKA 「コロナ質量放出 (CME) の太陽周期変化」参照)

右下: こと座リング状青雲 (国立天文台提供)